氏　　名	蓼沼　佐岐
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	乙第３２４号
学位授与年月日	平成２９年１月６日
審査委員	主査　教授　　石橋　豊
	副査　教授　　並河　徹
	副査　教授　　田邊　一明

論文審査の結果の要旨

心血管疾患の発症に、栄養を含め生活習慣が強く関与している。近年、食の嗜好と疾患の発症や死亡に関連する疫学研究結果が報告され始めた。しかし、追跡研究で塩分嗜好と心血管疾患の発症との関連を検討した研究はみられない。そこで、本研究は、全国規模のコホート集団を用いて、塩分嗜好と心血管疾患発症の関連を明らかにすることを目的とした。対象は、全国12地区の一般住民が参加したコホート研究（Jichi Medical School (JMS) コホート）において、1992年から1995年のベースライン調査に参加し有効な回答が得られた11,394人とした。塩分嗜好は、自記式質問票を用いて塩分の好みを5区分で尋ね、回答から、好き、まあまあ、嫌いの3群に区分した。心血管疾患は、脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）または急性心筋梗塞と定義した。心血管疾患の発症は1995年から2005年の間（平均追跡期間10.7±2.4年）に、健診時の問診、郵送、電話、家庭訪問により把握し、医療機関に情報開示を依頼した。開示された医療情報を基にJMSコホート内の独立した4人の医師により最終診断を行った。分析には、塩分嗜好群別の検討に一元配置分散分析または$\chi 2$検定を、塩分嗜好に対する多変量解析としてCox比例ハザードモデルを用いた。結果、追跡期間中485人の心血管疾患発症がみられた。女性では、塩分が好きな群はまあまあな群と比較して、年齢調整において心血管疾患発症と有意に正の関連がみられ、脳梗塞、脳出血、急性心筋梗塞の発症でも、有意ではないが同様の関連を示す傾向がみられた。男性で同様の検討を行ったところ、年齢調整において塩分が好きな群でくも膜下出血発症と有意に正の関連がみられた。一方で、男性の塩分が好きな群で、心筋梗塞発症と有意に負の関連がみられた。この関連には、他のリスク因子にマスクされた可能性や調査対象数、追跡期間などの影響が考えられた。

本研究は、塩分嗜好が、特に女性で心血管疾患発症のリスクである可能性を示唆したものであり、予防医学分野の発展に寄与すると考えられた。